

令和7年7月19日

体調管理

おはようございます。自分の体調管理について、ふと思い至りました。中斎塾フォーラムを始めて、今迄一度しかお休みを戴いておりません。その一度は、伊勢神宮の式年遷宮にあたり、ぜひ参拝したいと思い、お休みさせて下さいと他の方をお願いしました。それ以外は、北関東フォーラム・東京フォーラム含めて、休みなく参加してまいりました。

改めて考えてみて、休まずに続けるというのは、必ずしも良いことではありません。私が突然出られないという状況になった場合、代わりに登壇して話して戴ける方がいる体制ができるだろうと思います。

例えば、代表幹事が一時間ほどお話し戴き、残り時間を副代表幹事や幹事の方々が担当して下されば有難いと思います。

現在、岡本理事長が二十周年記念に向けてさまざまな準備を進めて下さっております。その流れの中で、私が少しお休みをいただけるような仕組みを設けていただけると、大変有難いです。可能であれば、私が参加者の席に座りお話を聞き、質問させて戴くのも悪くないと思います。

心を磨く

開会のご挨拶を聞きながら、体調管理や体調の分析という観点も大切ですが、自分自身が話した内容を振り返り、見直すことの重要性を改めて感じました。その気づきを、今回改めて自分の中で裏付ける時間となりました。

もう一つ、これに関連して申し上げたいことがあります。以前からお話ししていますが、人間は年齢を重ねるごとに、どうしても体力が少しずつ低下していきます。努力をせずにいれば体力は急激に落ちてしまいますが、自分なりに意識して体を動かすことで、その下がり方は緩やかになり、年齢相応に保つことが可能です。これは体力的なものです。

また、自分の人格を磨いていく努力、「心を磨く」ということも、非常に大切だと感じております。心が豊かになると、表情にもその豊かさが現れて参ります。そうした日々の積み重ねが、やがては「良いおばあさん」「良いおじいさん」になることにつながっていくのだらうと思います。ぜひ心も共に磨いていきましょう。

早期受診の重要性

体力面で何か少しでも気になることがあれば、放置せず早めにお医者様に相談することも大切だと感じております。

私の学生時代の友人がいます。久しぶりに会ったところ「五日後入院し、翌日

手術を受けることになった」と聞かされました。その際に、「お前も気をつけたほうがいい」と忠告を受けました。

何に気をつければいいのか尋ねると、少し変わった話ではありますが、トイレで便の状態を見れば体調の目安になる、とのことでした。バナナのような形が出るのが健康で理想的な状態だと言われています。

ただその友人は、最近では小指の先程の小さなものしか出なくなり、どうもおかしいと感じて医師に相談したところ、「すぐ入院してください」と言われたそうです。

色々予定があり、多少先延ばしにして入院しました。何ヶ月も「まだ大丈夫だろう」「一応出ているから」と自己判断で放置していたのですが、医療に関してはやはり、素人判断ではなく専門家である医師に任せるべきだと、友人も痛感したとの事です。

その友人は水分が足りないと思い込んでいたそうですが、実際には、何ヶ月も改善せず、ようやく病院に行ったところ、「前立腺に問題ありの可能性が高い」と診断されました。

まずはかかりつけ医に相談したのですが、「もう少し早く来ていれば…」と言われました。うちでは対応できないので専門の病院を紹介しますと、大きな病院を紹介されました。その病院で検査を受けた結果、さらに詳しい検査が必要と言われ、再検査を受けたところ、手術することになりましたが、入院直前になってご家族がインターネットで日本国内の専門医を調べ、最も多く手術実績のある病院が有明にあると突き止めたのです。そこで友人は、手術する寸前に紹介された病院に事情を話し、その病院で手術を受けたいので、紹介状を書いてほしいとお願いしました。

しかし、元の病院医師は怒って「よそへ行かないでうちでやればいい」と強く引き止めたそうです。それでも患者本人は意志を変えなかった為、最終的には資料を揃えてもらい、希望の病院へ移ることができましたが、紹介状や資料のやり取りがスムーズにいきませんでした。看護師さん同士が間に立って交渉することになり半年ほどかかりました。

最終的には「このままだと患者の希望が握りつぶされてしまう、このことが表面化すると問題になります」と指摘され、ようやく資料が提供されたと聞いております。

その後、有明の専門病院で再度検査を受け、三つのがんが見つかりました。医師からは約三年かけて、段階的に治療する旨説明され、まず1回目の手術を受け、無事成功したそうです。術後の経過観察も半年程かかりましたが、現在は二つ目のがん手術に向け、再度入院を予定しているとのことでした。

その友人が強く語っていたのは、「体調に不安を感じたら、我慢せずかかりつけ医に相談すること。周囲の人から『顔色が悪い、病院へ行った方がいいんじゃないか』と勧められた時は、素直に耳を傾けることが大事」ということでした。

以上、小島幹事の開会挨拶を受けて、私から感想をお話ししました。

GHQ による戦後の教育統制と焚書

最新の知足を見て下さい。山崎先生が書かれた文章で私の知らない事がありました。

以前太田警察署に頼まれて、PTA の方々が多く集まる太田警察署の講堂でお話しさせて戴きました。その中でたまたま子どもの教育に関する話から広がり、終戦直後は子どもたちの教科書に墨を塗るよう GHQ が指示し、教科書に墨を塗った時代がありました。

これを話した際、会場で何名か手を挙げたので、理由を聞いたら「はい、私は墨塗りした子供でした」という人が何人もいました。手を下ろさない人に聞くと、墨を塗らせた側の先生でした。

山崎先生はアメリカが日本に対し焚書坑儒を行った実例を紹介してくれました。私は GHQ が日本の書物を発禁にしたことは知っていましたが、計画的、組織的に日本の国の誇りを失わせるために、日本国民に見せてはならないと判断した本を摘発し、組織的に潰したのです。私は発禁について、そこまで組織的ではないと思っていました。

「GHQ が隠した本当の日本」「GHQ 焚書図書開封（アメリカの占領軍に消された戦前の日本）」「大東亜戦争の真実」

山崎先生の書かれた所を、しっかりお読み戴きたいと思います。

論語の素読と実践的な学びの習慣

須釜さんのお嬢さんが小さい頃病気になった大変なお話です。脳腫瘍になると治るのが難しいですが、それが現時点では治り、お勤めもしているということで大変よかったと思います。しかしご本人の話を聞くと、大変な思いをされ、頭の中が大変混乱したそうです。

大変だった時本屋さんに行き、大栗道栄和尚という方の書籍が目にとまりました。自分の心が波立ってどうにもならない時、大栗道栄という和尚さんの本を読んだら、心が癒され落ち着きを取り戻せたという話でした。

本は普通に読むとさらっと終わってしまいます。精神状態が違えば本は真剣に読めば読む程、何か手応えを感じるものです。

論語の素読をしている時、気になるものがあったら、すぐメモする習慣をつけると良いでしょう。

縦の学問と横の学問

私は以前から「縦の学問」と「横の学問」についてお話しておりますが、横の学問はネタが尽きると、すぐに終わってしまいます。一方で、縦の学問は深く掘り下げることができる為、どのようなテーマであっても話が展開できるはずです。

村井さんが以前開始挨拶で、トランプさんの分析をして欲しいと言われ、トラ

ンプさんについてかなり長い時間話しました。今回、その内容に対して様々な反応を戴きました。

一番分かりやすく言って戴いたのは参与の大野さんです。大野さんの周りには専門家が大勢いますが、私の話を文章で見て、あのようにはトランプ氏を分析している人が非常に少ないことが分かりました。多くの方は、目の前で起きている出来事に振り回され、基本的な分析に至っていないのが現状だとの事でした。

私の分析は、専門家同士の意見交換の中で「的を射ている」と評価されたとの話でした。このような考え方は、現在の日本においては非常に希少であり、またそれを文章として残すというのは、大変勇気が要ります。今回はその文章を『知足』に掲載したので、これは人様に見せられるとの感想を戴きました。

さらに、「このような視点でトランプ氏の分析を行い、未来予測のような視座まで少しずつ盛り込まれている。非常に高く評価できる内容です」とお褒め戴きました。

改めて見直してみると、加筆したい箇所がいくつもありました。基本的な考え方としてはあれで良いですが、さらに深い見方を加え、横の知識を補うことで、もう少し視座が広がります。縦の学問の枠組みの中で分析を重ねていけば、より洗練されたトランプ氏の分析になるだろうと改めて感じております。

論語の主要解説者とその解釈の特性

では、論語に参ります。私が先に読みますので、後について素読をして下さい。(全員で素読)

論語を素読させて戴くと、素読しながら色々頭の中に浮かびます。舞台の上で読んでいる際、所作も入れる。そういう読み方ができるといいですね。それと同時に「^{ひじ}肱を^ま曲げて^{これ}之を^{まくら}枕とす」ここを読んでいると夏目漱石が浮かびます。

本に関しても、ここの文章は本に紹介されていたな、あの本もう一回読み直したいな、と色々浮かびます。

論語の説明にまいます。説明の中で、私は貝塚茂樹先生、宇野哲人先生、洪澤栄一さんの論語解説と三つ見ますが、私が一番しっくりくる解釈は、大抵貝塚論語です。

しかし今回は貝塚論語ではなく、宇野哲人先生の論語でした。宇野先生も私にピッタリとくる解説をするものだと思います。色々参考にする先生方も、自分にピッタリとくるものがあればそれで良いです。まずそれを見て、かつ二、三人の先生の解釈も参考にすると良いでしょう。

参考にしましたら、宇野哲人先生はどういう人生を送ったのか、どういうスタンスで論語の解説をしたのか、貝塚先生や洪澤栄一さんはどういう人物なのか、その人となりを見ます。自分なりにこういう人なのだと理解した上で、その人が解説したのを見て、この人は今回芯がこちらに寄っているから気をつけて読まなければいけない、となります。

私の印象では、宇野哲人先生は非常に穏やかでおっとりした先生で、その時代

では日本最高峰の学者でした。宇野哲人先生から息子の宇野精一先生に学問の系譜が受け継がれ、現在は宇野精一先生の息子である宇野茂彦先生がその系譜を受け継ぎ、今は湯島聖堂斯文会の理事長になっています。

その宇野理事長ですが、私はぶっきらぼうで面白くない人だと思っておりました。後藤俊夫先生が商人道サミット第一回を滋賀県日野で行った際、私は来賓として出席致しました。隣の来賓席に座られたのが宇野理事長で、お話をしたら印象が変わりました。見た目がぶっきらぼうで、とっつきにくい人なのだろう、と思っていましたが、話をしてみたらすぐほぐれました。人間は見た目だけでは分からないといつも思います。

宇野哲人先生はそのような背景があることを踏まえ、お読み戴きます。非常に真っ当で標準的な解説、一番どなたにも通じる解説が宇野論語です。

貝塚先生は自分の意見をはっきり言います。今時の学者はけしからん、今時の官僚は何を考えているのか、今の政治家はどうなっているのか、等です。貝塚先生も私の論語解説に入れておりますので、結構きつい言い方をする人だなという感じでお読み戴ければ良いでしょう。

渋澤栄一さんの場合、私が読んでいる書は「論語講義」です。渋澤栄一本人が言い残したもので八十五歳の時に六十四歳の尾立維孝という二松学舎の先生に頼んで口述筆記をして貰いました。

尾立維孝さんが残したものでは、「渋澤栄一先生は八五歳なのに頭はしっかりしている。日常生活も若い時からずっと変わらず、その忙しさたるや大変なものです。私は渋澤栄一さんの自宅である王子に通い、そして兜町にある事務所にも出かけていき、色々お話をし、聞かせてもらった」と書き残しています。

その中で渋澤栄一はこのような生活だったと語っています。渋澤栄一は朝6時に起きる。顔を洗いご飯を食べ用事を済ませ、その後来客者が次の間で控えているので応対し、九時半には出かける。兜町の事務所に行き、色々約束をして、あちこち回る。

本人が書き残したもので、あちこち行って用事を済ませ、自宅に帰るのは夜十一時である。十一時に帰ると、自宅に来ている手紙へ目を通し、お風呂に入り、なすべきことをして一時間でだいたい夜十二時頃横になる。本人曰く、言行省察の方を実行する。今日一日色々な場所へ行ったり、人に会ったりしたが、どなたに会ったか、名前を思い出す。どういう話をし、どういう約束したかを思い出す。

その次は誰に会い、名前やどのような話をしたか、思い出して納得できたらすっと眠りにつく。寝てからもそんなことをするのですから、大変な話です。十二時に寝て、六時に起きるのではなく、そんなことをしたら三十分はかかるでしょう。

最後に、論語の素読をするときは、自分のお気に入りの学者が解説している本をお読みになると良いでしょう。見続けていくと、他の人はこう、という読み方になります。できれば二、三人お気に入りの学者が見つかれば良いですが、今度は自分の読み方が生まれます。

① 子 曰く、之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。

(雍也第六・18)

宇野先生の論語解説が良かったので、そのままご紹介致します。

「これを知る者はこれを好む者にしかず」これを食べ物で例えました。食べ物で例えているので非常にわかりやすいです。例えばお米、お米は食べられます。これは「これを知る者は」に値します。お米は食べられる。ただ生米を食べるのではなく、お米を炊いて食べたり、水に浸して食べる。非常事態の時は水に浸してふやかして食べることになるでしょう。これは食べられるものだと知っているのが、「これを知るものは」にあたります。

「これを好むものは食べてこれを嗜む」どういう風な食べ方をすれば良いかも考えて古米、古古米、古古古米を食べてみました。それぞれ違います。私は古古古米を食べてみましたが、あまり美味しくなかったです。

先日あるホテルに泊まった際、古古古米と同じような味のご飯が出てきて驚きました。「これを知る者はこれを好む者にしかず」お米が食べられると知っていたら、古米なのか、古古米なのか、古古古米なのか、またはチャーハンにするのか、美味しく炊く為にはどうしたら良いか、好む人は食べ方をいろいろ研究するようになります。その後食べ方がわかったら楽しむ。ご飯を食べる時はこう食べたい、このように楽しむ。宇野先生は珍しく食べ物に例えて解釈してくれました。

普通は道を考えて解説しますが、学者の先生方もどうすれば聞いて戴く方に分かってもらえるか、それを考えながら解釈しております。色々な先生方の解釈を見て、ぜひ自分に合った先生を見つけ出しましょう。

「これを知る者はこれを好む者にしかず。これを好む者はこれを楽しむ者にしかず」というのは有名な一節ですので、食べ物で解釈をしたのは素晴らしいと思いました。

自分は知る者なのか、好む者なのか、楽しむ者なのか、と考えてみれば、自分自身がどのレベルにあるか、仕事や学んでいることを人様に紹介する時にどう説明すれば良いか分かります。

② 子 曰く、疏食を飯い、水を飲み、肱を曲げて之を枕とす。楽亦其の中に在り。不義にして富み且つ貴きは、我に於て浮雲の如し。

(述而第七・15)

これも他の先生と比べ、宇野先生の解説が良いと思いました。「疏食を飯い」疏食とは粗末な食べ物。そして水を飲み、枕がないので肘で寝る。

以前は疲れを感じる事が少なかったのですが、最近は疲れる事が多くなりました。

粗末な食事や、水を飲んで肘枕で横になる事をあまりお金持ちでない、いわゆる貧者の生活と思います。

一般的には孔子を以下のように解釈することが多いようです。貧乏な生活の中にこそ、楽しく、素晴らしいものが見つけられるものだ。

宇野先生は、孔子は貧乏であっても、仮にお金がたくさんあったとしても、気にせず、現在の生活をどう充実させて過ごすか。自分が今、お金を持っても貧乏であっても、それぞれの立場で楽しみを見出す。その心構え、態度が良いのだ。そういう解釈をしていますので、宇野先生は他の先生と少し違って良いと思いました。

この中で渋澤栄一が好きなセリフです。中村天風先生も同じようなことを言っておられました。不義にして——、今風に言うと、不正な方法でお金を持つことは良くない。詐欺をしたり、泥棒したりすれば完全に警察に捕まりますが、すれすれで生活をしている。心の中では良くない、困ったと思っているが、それでもいい、やってしまえということで、詐欺ではないが、それに近いようなことでお金持ちになる。名誉も手に入れる。これは如何なものでしょうか。

孔子はこのようにして手に入れた名誉やお金は、浮雲の如くすぐ消えてしまう。ふわふわして確かなものではない、と言っています。

渋澤栄一流に言うと、正しい手段で利益を得る。正しい手段で会社を運営する。正しい手段でお金を手に入れるということであれば、胸を張って堂々と進むべきである。邪な方法で稼ぎ始めると、増々悪いものに取りつかれてしまう。まともな道、人生を送りたいと思ったら、まともな手段でやるべきであって、心咎めるような行動であってはいけない。

これを読めばその通りですが、宇野先生は、学者としては大変良い人生だったと思います。仮に私が不正な手段で富を手に入れたとしたら、それに対して心が動かされることはない。という言い方を解説の中でしております。

③ 葉公 孔子を子路に問う。子路対えず。子曰く、女 奚ぞ曰わざる、其の
ひと な いきどおり はつ しょく わす たの もつ うれい わす おい まさ いた
んとするをしらずと爾云うと。

(述而第七・18)

葉公が孔子とはどのような人物か子路に聞いたが子路は答えられなかった。答えようと思っても、私の先生はこういう先生ですとは、なかなか言えないものです。

例えば、中斎塾フォーラムには参与の先生方がいらっしゃいます。その中で中里麦外先生に時々お会いしますが、その時々によって印象が変わるのです。大学の話をする時は、真面目に大学のことを心配し一生懸命やっている先生。それで話が終わればそういう印象になります。

俳句の話になると、まるで人間が一変してしまい、悟りの世界に入ってしまう。俳句の話より、あの世の話に力が入りますね。麦外先生の俳句は色彩を非常に強く出ているので、会話や内容によって、まるっきりその人物のイメージが変わるのです。

葉公が子路に孔子はどのような人物かと聞いた時、子路は、孔子を見ているとイメージがその場その場で大きく変わります。富士山よりさらに高い山のようなイメージがあるので、なかなか言えません。孔子がそれを聞いて、お前はなぜ私のことを、こう言わなかったのだ。単純明快で分かりすぎるくらい分かってはいないか。

孔子は、「これは素晴らしいと思った時、うちの先生は踊り上がるほど興奮し、周りに大変な影響力を及ぼす」となぜ言わないのだと言ったようです。

自分が困って悩んでいることがあっても全部忘れます。悩むこと苦しむことがあってもこれだ！と思った瞬間全部忘れるのです。

更に自分が年取ってきている事も忘れます。私も年を取ったと実感することがありました。

昨日都内を回っていて妻と一緒に電車に乗りました。荷物を持って電車に乗ると座っている人がどうぞと譲ってくれました。「有難う御座居ます」と妻が座ると、その隣に座っている人が「どうぞ」と言いかけたので、目線で結構ですよと表しました。そうですか、いう感じでその隣の人は譲らなかったのずっと立っていたのですが、私は「どうぞ」と言ってもらえる年回りなのだと実感しました。

最初その人は私より年上なのではないかと思っていました。こんなおばあさんから見て私は席を譲ろうかと思うぐらいの年令に見えるのか、そう思うと、年老いるのを忘れる、と孔子が言っていた事を思い出します。皆自分がどう見えるか分かっていないのですね。

これは素晴らしいと思ったら年も忘れるし、悩みや苦しいことも吹っ飛びます。そういう精神生活でいけると良いですね。

子路、その人となり、「うちの先生は憤りを発したら、食べることも忘れてしまう」孔子はこれを子路に言って欲しかったのです。朝ご飯を忘れ、昼ご飯も忘れ、晩飯も忘れ、一日中食べなくても必死になって学問に取り組むのだから、食べることを忘れるのは当たり前で、これは素晴らしいことだと思えば、悩み事なんかどこかへ行ってしまおう。

こういう人生はいいですね。憤りを発して食を忘れる。私は食を忘れるのはせいぜい一回です。一日中食べない事はまずありません。お腹が減って我慢できないので、食べます。憤りを発して食を忘れる、三回忘れた人がいたら教えて下さい。一回はいますよね。

食を忘れ、楽しみを以て憂いを忘れ

悩み苦しみなんて、もともと忘れたいのですから憂いは忘れられますね。

老の将に至らんとするを知らずと爾云うと。

自分で胸に手を当てれば、自分が年寄りだなんて今の年寄りは思っていないせん。少なくとも七十歳の方は五十歳、八十歳の方は六十歳です。前期高齢者と言われる方はそこから二十減らして考えればよいですね。昭和二十二年で平均寿命が五十歳を超えたのだから、今は平均寿命が五十どころか七十代、八十代になっています。

最近の出来事

先月はあかぎ信用組合で岡本理事長の段取り御縁により、渋澤栄一と二宮尊徳のつながりに関係する話を致しました。

あかぎ信用組合は論語の中にある五常講、仁・義・礼・智・信を理念として金融業を営んでおられるとの事です。仁の心で人様にお金を貸す。義はお金を貸す、返してもらうという約束を守る。礼は有難う。知はさらに工夫を重ねて知恵を出していく。最後、信は信頼です。あかぎ信用組合はそのような考えで経営致しておりますという理事長の御挨拶でしたので、渋澤栄一と二宮尊徳のつながりに関してのお話をさせて戴きました。

日本の弱体化

選挙がもうすぐ開票です。今回選挙は行きたくないと思っていました。今の選挙で投票に値する政治家がいなと思うので行きたくありません。最初投票用紙が来た時、捨ててしまおうとしました。いつもは期日前投票をしています、今回は投票日が近付いてくると、やはり行かざるを得ないと思い始めました。人には聞かれたら行くよう言うのですから、自分が行かない訳にもいきません。しかし投票に値する人物がいるかといえば…いません。

それなら国民の一人として義務を果たさなければいけないだろうと思い、会社の関係も考慮しつつ、消去法で仕方なく期日前投票をしました。

質素なものを食べて水を飲んで質素な生活をしていき、楽しみはそこにあるし、悪さをして名誉をもらったり、お金をたくさん稼いだり、これは浮き雲のようなものです。

今の時代は国が壊れるような政治をしていると思っています。日本が坂道を転げ落ちて海に落ち、一番下まで行ったら跳ね上がると言いました。今迄私はまだ海底についてない、坂道を転げ落ちていないと言いつけましたが、今は言えません。

日本で餓死者が次から次に出てきた時、底に着いたと言えます。最近、日本でも飢え死にが、ぽつりぽつり起きていますがメディアが放送しません。亡くなってだいぶ経ってから「いや、あれは」といった言い方をしています。餓死速報と

いう報道がされ始めたら、海底に着いたと思って下さい。

終戦直後、餓死がメディアに載ったのは裁判官が飢え死にしたという記事です。その裁判官は、私の大学時代同級生だった人の父親でした。色々な情報が入ります。そうすると、その父親は、配給されている食べ物を子供にあげる。母親も子供にあげていた。子供はがっちりした体格になっています。

父親は食べ物をどんどん子供にやり、奥さんにもあげていた。そうすると正式には飢え死にではなく、栄養失調で亡くなったとの事です。一般的には餓死ということで報道されましたが、お医者さんの見立てでは餓死というより、偏った食事でした。何も食べないで亡くなったのではない。少しずつお腹に入っていた。これから日本では偏った食事で死ぬ人もいるでしょうが、餓死だと認定される人が次から次へと出てきて、その数が跳ね上がると思って戴ければ良いでしょう。

質素な生活、この文章から見えるのは、今の時代に置き換えると質素な生活を強いている政治家、官僚であり、これはもう終わりでしょう。世の中ひっくり返ります。世の中ひっくり返るといえるのは、餓死が続出した時、政治家や官僚はどう責任取るのかとメディアが報道することになるでしょう。そういう状況が近い将来来ると考えています。

不義にして富み且つ貴きは、我に於て浮雲の如し。

浮き雲の如しで稼いだ人たちがなんと世の中に溢れていることでしょう。以前申し上げましたが、イーロンマスク氏は年収幾ら取っているのでしょうか。もうわからない世界に入りました。

恒例の質問

恒例の質問をさせて下さい。

- 良い日がずっと続いている方
- 嘘はつかなかったし、嘘をつかれなかった方
- 有難うと言い続けているし、有難うと言われ続けている方
- 体の手入れをよくやっていると思う方
- 自分磨きもよくやっていると思う方
- 昨晚眠る時に満足感があった方

令和七年を考える

令和七年は挑戦の年、乱高下を繰り返しております。

前も申し上げましたが、日本が消滅するかもしれない。ではどうしたら消滅し

ないかということに対して、一つ考え方を申し上げておきます。

国家が成立するには一番、土地があること。国家が成立するには土地が必要です。二番目、国民がいること。三番目、その国を代表する行政、政府があること。且つその国を、他の国が国家として認めること。

この条件が全部クリアできれば日本はなくなりません。日本には大地震で沈まない限り土地があります。大地震で土地がなくなるであろうと言われている国家がありますから、国家消滅の危機はそちらの方が高いでしょう。

国民は最後の一人まで、いる間は消滅しません。三番目は政府が存在していて、それを他の国が認めていれば、日本の国は消滅致しません。

非常に常識的な答えでございますが、そのようにお考えください。時間が参りました。これにて、終了させていただきます。有難うございました。